

Prime Provisioning SybaseデータベースでUNI共有同期タスクをロック解除する手順

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

概要

このドキュメントでは、Prime Provisioning Sybaseデータベースのユーザネットワークインターフェイス(UNI)共有同期タスクを解決またはロック解除する手順について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- 構造化照会言語(SQL)
- Prime Provisioning サービスリクエスト(SR)およびタスクの作成

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Prime Provisioning 6.1以降
- Oracle Database 11Gリリース
- Sybaseデータベース

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

問題

新しいEthernet Virtual Circuit(EVC)SRを作成するか、既存のEVC SRを編集すると、Prime Provisioningアプリケーションは例外をスローします。

1940 : Job ID[xxxx - Edit/Create operations are not allowed before completing shared UNI sync task | xxxx

解決方法

プライマリPrime Provisioning sybaseデータベースでロック解除手順を実行します。

ステップ1:iscadm (Prime Provisioningアプリケーションユーザ) を介してSecure Socket Cell(SSH)セッション上のPrime Provisioningサーバに接続し、ベースインストールディレクトリに移動します。

ステップ2:Prime Provisioning Sybaseデータベースに接続できるようにSSHセッションを設定します。

```
1. cd $ISC_HOME
2. ./prime.sh shell
3. cd bin
4. source vpnenv.sh
5. cd $$SYBASE_HOME/bin
6. source sa_config.sh
```

ステップ3:Prime Provisioningアプリケーションを完全に停止します。

```
./prime.sh stopall
```

ステップ4:Prime Provisioning Sybaseデータベースを起動および初期化します。

```
./prime.sh startdb
./prime.sh initdb.sh
```

ステップ5:Prime Provisioning Sybaseデータベースに接続します。

```
dbisql -nogui -c "uid=DBA;pwd=sql" -port 2630
```

注 : PPホームディレクトリからmore runtime.propertiesコマンドの出力でこれらのパラメータを確認します。db_usr値とdb_pwd値を探して下さい。

ステップ6:Prime Provisioningによってスローされた例外に含まれるタスクIDを確認します。

```
select * from SHARED_UNI_SYNC_INFO;
```

ステップ7 : 同期タスクでサブミットする必要がある他のSRの詳細をキャプチャします。

```
select * from SHARED_UNI_SYNC_TARGET;
```

ステップ8 : 共有UNIタスクの詳細を削除します。

```
delete SHARED_UNI_SYNC_TARGET where KEY_LINK_INFO_ID =
delete SHARED_UNI_SYNC_INFO where id =
```

注 : task_idは、Prime Provisioningによってスローされた例外でカバーされるタスク番号です。

ステップ9: Prime Provisioningアプリケーションを起動します。

```
./prime.sh start
```

ステップ10:[Prime Provisioning GUI] > [Operate] > [Task Manager]に移動し、同期された共有UNIでフィルタを実行します。タスクを選択して[Delete]をクリックすると、タスクが削除されます。

ステップ11: NavigatetoServices Request Managerと、同期タスクを発信したSR番号でフィルタを実行し、強制消去を実行します。

注 : SRで強制消去を実行する前に、VLAN ID、PE、インターフェイスなどのすべてのSRの詳細についてメモを取ります。

ジョブの削除と同期タスクの後に、ブロックされたデバイスとインターフェイスを使用して新しいSRを作成し、それらがオペレータによって使用されるように解放されるようになりました。SRを再度作成して展開できるようになります。